

用語集

用語	意味
BCP	事業継続計画の意味。災害や事故など不測の事態を想定し、事業継続の視点から対応策などをたてること。近年では病院等で重要視されており、大規模地震や大規模停電時にも給電可能な設備を導入しているケースが見られる。
CCS	二酸化炭素回収・貯留。排出される二酸化炭素を回収し、適切な貯留場所にCO ₂ を地中深くに圧入する技術。
CCU	二酸化炭素回収有効利用。CCSと違い、回収した二酸化炭素を有効利用する。
EV	電気自動車。
FCV	燃料電池自動車。
FC	燃料電池。
GT	内燃機関の一種。燃焼器により発生した高温・高圧ガスでタービンを回転させ、そのエネルギーを利用する仕組み。
LNG	液化天然ガス。
MCH	メチルシクロヘキサン。常温・常圧では液体状態。有機ケミカルハイドライド法での水素運搬を行う際に、このMCHの形に合成し水素運搬を行う。
MGT	マイクロガスタービン。発電出力が小さく（概ね200kW以下）、回転数が80,000～120,000min ⁻¹ の高速発電機を備えた超小型ガスタービンのことをいう。
PV	太陽光パネル、太陽光発電。
SDGs	持続可能な開発目標。2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成される。
SOFC	固体酸化物燃料電池。
液化水素	水素は常温・常圧下では気体であるが、液化水素は液体状態の水素である。通常の圧縮水素と比べ、運搬効率が最大12倍とも言われる。
エネルギーキャリア	エネルギーの輸送・貯蔵のための担体となる化学物質を指す。石油、ガソリン、天然ガスなども含まれるが、最近注目されているのは、水素、有機ハイドライド、アンモニア、メタノール等である。
褐炭	水分や不純物などを多く含む、品質の低い石炭の一種。発電効率が低く、また乾燥すると自然発火する恐れもあるため、利用先が限定される。この褐炭から水素を製造することが可能であるため、最近注目されている。オーストラリアに大量の埋蔵量があるとみられている。
グリッドパリティ	発電コストが既存の電力のコスト（電力料金、発電コスト等）と同等かそれより安価になることを指す。
コージェネレーションシステム	熱源より電力と熱を生産し供給するシステムの総称。内燃機関（エンジン、タービン）や燃料電池で発電を行い、その際に発生する熱を活用する方法、蒸気ボイラーと蒸気タービンで発電を行い蒸気の一部を熱として活用する方法がある。
水素混焼発電	天然ガスなど、本来の発電燃料の一部に水素を混ぜて発電する方法。
水素サプライチェーン	水素の製造から輸送・貯蔵、利用までの一連の流れのこと。
水素専焼発電	水素のみを燃料とし、発電する方法。
セルスタック	燃料電池の本体部分。電気を発生させるセルと呼ばれる板状の基本部材を積み重ねたもの。
定置FC	定置式燃料電池。現在は都市ガスやLPガスを燃料とするものが主流だが、将来的に水素流通が進んだ際は、水素を燃料とするものが多く流通するとみられる。
バース	貨物船等が積卸のために接岸させる岸。
パリ協定	2020年以降の気候変動問題に関する、国際的な枠組み。 2015年にパリで開かれた「国連気候変動枠組条約締結国会議（通称COP）」で合意された。（1997年の「京都議定書」の後継となるもの）途上国を含む全ての参加国に対して、排出削減の努力を求める枠組み。
メタネーション	二酸化炭素をメタンに転化させること。
有機ケミカルハイドライド法	水素の運搬方法の一種。トルエンに水素を反応させてMCHに転換し、この状態で水素を貯蔵・運搬する。水素ガスを約1/500の容積の常温・常圧の液体として貯め、運ぶことが可能。
ラストワンマイル	消費者が小売店で商品を購入してから自宅に持って帰る工程のこと。